

K 病院 K 先生(名誉センター長)のつぶやき

岩井屋はKリハビリステーションセンターの当時センター長だったK先生に開所時から大変お世話になっております。

今から18年ほど前の開所当時、K先生が「岩井君、施設を立ち上げるのであれば、K温泉街のような障がい者に優しい地域づくりから始めると良いぞ」とつぶやかれました。私は初めその意味がわかりませんでした。K病院のリハビリの療法士の方によると「病院内でリハビリをした後、温泉街に出てリハビリを行います。ここでは日常の出来事だから人目は気にならない。しかし、退院後、自分の地域に戻ると、周囲の目が気になり、閉じ籠り状態になって、せっかくリハビリしても身体が動かなくなる」そうです。

ですから私はK先生がつぶやかれた障がい者に優しい地域づくりの第一歩として、重度の方から田中の街に出させていただきました。

地域の方達も最初のうちは重度の方を見て退いていましたが、続けているとそれが普通になってきました。

その後、私は脳出血で3ヶ月間の病院生活を送ることになりました。リハビリを終えて戻ってきたとき、田中駅の駅員さんから「最近岩井さん見なかったから死んじゃったかと思ったぞ」と言われました。普通は杖を突いて歩いている人に言わない言葉ですが、私は田中の街がK温泉街のような街になってきた実感がしました。障がい者を普通に見ているんだと。また地域の方から「転んだら助けてやるよ」と声をかけられました。言葉の端々に障がい者への物珍しさを感じることはなかったです。

田中の街もK先生の言葉の通りになってきたと私は実感しました。障害者に優しい街に変化したのです。

このような町になったのも地域の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

理事長 岩井 孝司



<K先生(左)、T療法士(中央)と岩井屋にて>